(19)日本国特許庁(JP)　(12)特　許　公　報(B2)　(11)特許番号
特許第4450281号
(P4450281)
(45)発行日　平成22年4月14日(2010.4.14)　(24)登録日　平成22年2月5日(2010.2.5)

(51)Int.Cl.　　F I
E04F 19/04 (2006.01)　　E04F 19/04　101D
E04F 13/073 (2006.01)　　E04F 13/08　101Q

請求項の数 2　(全 10 頁)

(21)出願番号　特願2004-331586(P2004-331586)
(22)出願日　平成16年11月16日(2004.11.16)
(65)公開番号　特開2006-144231(P2006-144231A)
(43)公開日　平成18年6月8日(2006.6.8)
審査請求日　平成19年5月22日(2007.5.22)

(73)特許権者　390030340
株式会社ノダ
東京都台東区浅草橋５丁目１３番６号
(74)代理人　100085589
弁理士　▲桑▼原　史生
(72)発明者　後町　昌宏
東京都台東区浅草橋５丁目１３番６号　株式会社ノダ内

審査官　油原　博

最終頁に続く

(54)【発明の名称】出隅部材およびその施工方法

(57)【特許請求の範囲】
【請求項１】
細長板状の出隅部材本体と、該出隅部材本体の下部に嵌合する可動部材とを備え、該可動部材は、前記出隅部材本体の下部に対して上下方向にスライド可能に嵌合する嵌合部と、該嵌合部の下部から延在する舌状片とを有し、前記嵌合部の前面と前記出隅部材本体の前面とが面一となるように形成されるとともに、前記舌状片を前記嵌合部の前面から内側に位置させて、または前記嵌合部の前面より内側に位置させて内側方向に向かって形成され、前記出隅部材本体に前記可動部材を嵌合させた状態で、これら二部材の裏側に折り曲げのための切込みが形成されてなり、該切込みによって前記舌状片の少なくとも一部が切断され、該切込みで折り曲げた状態でも前記可動部材は前記出隅部材本体に対して上下方向にスライド可能であり、且つ、前記舌状片は前記切断された部分によって互いに干渉することなく重なり合った状態で床面に密接可能であることを特徴とする出隅部材。
【請求項２】
請求項１に記載の出隅部材を壁または建具などの床側出隅に取り付ける施工方法であって、前記切込みの切口に接着剤を塗布するに際して、前記出隅部材本体と前記可動部材との可動面には接着剤が付着しないように接着剤を塗布した後、前記切込みの部分で折り曲げて前記出隅に取り付けることを特徴とする出隅部材の施工方法。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】

本発明は、壁や建具などの床側出隅に取り付ける出隅部材およびその施工方法に関する。

【背景技術】

【０００２】

従来、壁や建具などの床側出隅に取り付けられる出隅部材としては、たとえば床に対してねじや金具で固定する下部幅木と、この下部幅木に嵌合する上部幅木とを有するものが知られている。この出隅部材は、下部幅木の上部裏側に設けられる段部に、上部幅木の下部表面側に設けられる段部を挿入して嵌合し出隅に取り付けることができる。（特許文献１、２）。

【特許文献１】特開２０００－２２０２８５号公報

【特許文献２】特開２００１－１８２３０８号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【０００３】

しかしながら、上記従来の出隅部材は、出隅に取り付ける際には、いずれも上部幅木、下部幅木の各部材の長手方向先端を突合せ接合ができるように先端形状を加工し、これら先端の切口に接着剤を塗布するとともに突き合わせて出隅角度に適合するものとするか、または上部幅木と下部幅木の各々の裏側に切込みを入れ、この切込みの切口に接着剤を塗布することにより、これら切込み部分で凸形状となるように折り曲げて出隅角度に合うものとするかによる。このため従来の出隅部材は、上下二部材の加工が必要になり構造が複雑であるとともに施工が煩雑である。

【０００４】

本発明の課題は、構造が単純であるとともに出隅に取り付ける出隅部材の施工が簡便なことである。

【課題を解決するための手段】

【０００５】

上記課題を解決するため、請求項１に係る本発明による出隅部材は、細長板状の出隅部材本体と、該出隅部材本体の下部に嵌合する可動部材とを備え、該可動部材は、前記出隅部材本体の下部に対して上下方向にスライド可能に嵌合する嵌合部と、該嵌合部の下部から延在する舌状片とを有し、前記嵌合部の前面と前記出隅部材本体の前面とが面一となるように形成されるとともに、前記舌状片を前記嵌合部の前面から内側に位置させて、または前記嵌合部の前面より内側に位置させて内側方向に向かって形成され、前記出隅部材本体に前記可動部材を嵌合させた状態で、これら二部材の裏側に折り曲げのための切込みが形成されてなり、該切込みによって前記舌状片の少なくとも一部が切断され、該切込みで折り曲げた状態でも前記可動部材は前記出隅部材本体に対して上下方向にスライド可能であり、且つ、前記舌状片は前記切断された部分によって互いに干渉することなく重なり合った状態で床面に密接可能であることを特徴とする。

【０００６】

このようにすることにより出隅部材は、出隅部材本体に可動部材を嵌合させた状態で、これら二部材の裏側に折り曲げのための切込みが形成される。この切込み位置で出隅部材を折り曲げることができる。このとき、舌状片を嵌合部の前面から内側に位置させて、または嵌合部の前面より内側に位置させて内側方向に向って形成されるので、出隅部材を折り曲げたときに折り曲げ部分において舌状片は互いに干渉することなく、互いに重なり合って折り曲げられる。さらに、舌状片は嵌合部に延在するので、嵌合部を出隅部材本体に対して下方にスライドすることにより舌状片を床面に当接させることができ、壁や建具の下端と床面との間の隙間を単純な構造で覆うことができる。

【０００７】

また、本発明は、請求項１に記載の出隅部材を壁または建具などの床側出隅に取り付ける施工方法であって、前記切込みの切口に接着剤を塗布するに際して、前記出隅部材本体と前記可動部材との可動面には接着剤が付着しないように接着剤を塗布した後、前記切込み

の部分で折り曲げて前記出隅に取り付けることを特徴とする。

【０００８】

このようにすることにより、出隅部材本体に可動部材を嵌合した状態で、これら二部材の裏側に折り曲げのための切込みが形成される。この切込みの切口に接着剤を塗布した後折り曲げて出隅の角度に適合するように形成することができる。さらに、出隅部材本体と可動部材との可動面に接着剤が付着しないように接着剤が塗布されるので、可動部材は出隅部材本体に対して上下方向にスライド可能である。したがって、可動部材を下方にスライドさせて、その下端が床面に当接するようにすることにより壁や建具と床面との間の隙間を隠すことができ、出隅部材の施工が簡便である。

【０００９】

次に本発明を構成する各要件についてさらに詳しく説明する。本発明の出隅部材およびその施工方法は、壁や建具などの床側出隅に適用可能であるが、たとえば壁と床の交差部分に用いられる幅木、腰壁と床の交差部分に用いられる腰壁用幅木などに応用可能である。

【００１０】

出隅部材本体は、断面略矩形の細長板状体で、下部側に可動部材と嵌合する嵌合部が形成される。出隅部材本体の材質は、無垢の木材、合板、集成材、単板積層材（ＬＶＬ）、木質繊維板（ＭＤＦなど）、パーティクルボードなどの木質系材料、硬質塩化ビニール樹脂、ＡＢＳ樹脂などの各種合成樹脂材料などを使用できる。

【００１１】

出隅部材本体の露出する部分は化粧面とされる。化粧面は化粧シートの貼着、または出隅部材本体の表面に各種模様を印刷しても良い。化粧シートとしては、天然突板や人工突板、あるいは不織布、紙、ＰＰ（ポリプロピレン）樹脂、オレフィン樹脂、塩化ビニール樹脂、ポリエステル樹脂、アクリル樹脂その他の合成樹脂などのシートで、これらシート面には模様が形成ないし描かれる。これらの化粧シートを出隅部材本体の露出面に貼着することにより化粧面が形成される。

【００１２】

可動部材は、硬質または軟質材料で形成される嵌合部およびこの嵌合部の下部に延在（延長）され、かつ軟質材料で形成される舌状片を有する。嵌合部の形状は出隅部材本体の下部に対して嵌合およびスライド可能であれば特に限定されないが、たとえば上方に開口した樋形（コの字形）などである。嵌合部の表面（前面）は出隅部材本体の化粧面と面一に形成される。嵌合部の材質は、硬質塩化ビニール樹脂、軟質塩化ビニール樹脂、ＡＢＳ樹脂などの合成樹脂系材料、ステンレス、アルミニウムなどの金属系材料などを使用できる。

【００１３】

舌状片は、その形状が舌状で、その前面（表面）が嵌合部の前面から内側に位置させて、または嵌合部の前面より内側に位置させて、内側方向に向かって形成されると良い。舌状片が内側方向に向かう形状は、平面状または外側に凸面状に反るように形成されると良い。舌状片を形成する軟質材料は、ジエン系のイソプレン、ブタジエン、スチレンブタジエン、クロロプレン、アクリロニトリルブタジエンなどの合成ゴムや非ジエン系のブチル、エチレンプロピレン、ウレタン、シリコンあるいはＰＰ（ポリプロピレン）樹脂などの合成ゴムを使用しても良い。

【００１４】

出隅部材本体および可動部材の裏側に形成する切込みの形状は、特に限定されないが、略Ｖ字形状や略Ｗ字形状などとすると良い。切込みの深さは、出隅部材本体の場合、出隅部材本体の裏側面から化粧シートの裏側面まで、または略化粧シートの厚さに相当する肉厚（たとえば０．０５～０．１５ｍｍ）の部分を残すように形成されると良い。同様に、可動部材の場合についても、可動部材の裏側面から略化粧シートの厚さに相当する肉厚（たとえば０．０５～０．１５ｍｍ）の部分を残すように形成されると良い。このようにすると、切込み部分における残された肉厚が小さいので折り曲げが容易である。

【００１５】
出隅部材本体や可動部材の切込みの切口に塗布する接着剤としては、たとえば合成ゴム系、ウレタン系、エチレン酢酸ビニル系、酢酸ビニル系、アミノ系、あるいはフェノール系、エポキシ系、シリコン系、ユリア系、メラミン系、アクリル系、レゾルシノール系、エチレンビニルアセテート系なども使用可能である。
【発明の効果】
【００１６】
本発明によれば、構造が単純な出隅部材が得られる。また、この出隅部材を出隅に取り付ける施工が簡便である。
【発明を実施するための最良の形態】
【００１７】
以下、本発明に係る出隅部材およびその施工方法の実施例を図面に基いて詳細に説明する。なお、図１～１０において、同一または同等部分には同一符号を付けて示す。
【実施例１】
【００１８】
図１は、本発明に係る出隅部材の実施例１を示す断面図である。実施例１の出隅部材O_1は、壁や建具などの床側出隅に用いられる出隅部材、たとえば壁と床の交差部分に用いられる幅木、腰壁と床の交差部分に用いられる腰壁用幅木などである。出隅部材O_1は、断面略矩形の細長板状の出隅部材本体２と、この出隅部材本体２の下部に対して上下方向にスライド可能に嵌合する可動部材１０とを備える。
【００１９】
出隅部材本体２は、断面略矩形の細長板状体で下部に嵌合部７を有し、嵌合部７の表裏面が可動面５となる。嵌合部７の肉厚T_1はこれより上部の肉厚T_0より小さく形成され、後述の可動部材の嵌合部１３が嵌合したときに、可動部材の嵌合部１３の幅が上部の肉厚T_0と略同じになるように形成される。出隅部材本体２の材質は木質系で、たとえばＭＤＦで形成される。出隅部材本体２の表面側中間には装飾溝８が形成される。さらに、出隅部材本体２の主として表面側の露出部分には化粧シート１９が貼着される。化粧シート１９としては、たとえば樹脂シートが使用される。
【００２０】
可動部材１０は、上記出隅部材本体２の嵌合部７に嵌合する嵌合部１３と、この嵌合部１３の下部に延在（延長）する舌状片１６とを有する。さらに、嵌合部の前面１４と出隅部材本体の前面４とが面一となるように形成されるとともに、嵌合部１３の内側が可動面１１となる。可動部材の舌状片１６を嵌合部の前面１４から内側に位置させて内側方向に向って外側に凸状に反るように形成する。嵌合部１３はＡＢＳ樹脂、硬質塩化ビニール樹脂などの硬質材料で形成され、舌状片１６はＰＰ（ポリプロピレン）樹脂などの軟質材料で形成される。
【００２１】
図２は、図１に示す出隅部材の平面図である。図３は、図２の正面図である。図４は、図２の背面図である。図２に示すように、出隅部材O_1は、折り曲げ前の出隅部材本体２および可動部材１０（図１に表示）の各裏面の折り曲げ相当位置にW字状の切込み２２が形成される。W字状の切込み２２は、中央に位置する実質の山形部２２ａと、この山形部２２ａの両側に形成される傾斜部２２ｂとで形成される。なお、図３、４において、符号９は、切込み２２によって発生した孔である。
【００２２】
図５は、図１～４に示す出隅部材の切込みの深さを説明する断面図である。切込みは、出隅部材本体２に可動部材１０を嵌合した状態で切り込まれ、出隅部材本体の裏面３から化粧シートの裏面２０まで２点鎖線２６ａで示す位置まで切り込まれる。したがって最大の切込み面は２点鎖線で示す斜線２６ｂとなる。これにより化粧シート１９の厚さに相当する肉厚（たとえば０．０５～０．１５mm程度）の部分を残すように切込みされる。同様に、可動部材１０の場合についても、可動部材の裏面１２から略化粧シートの厚さに相

当する肉厚の部分を残す２点鎖線２６ａまで切り込まれる。

【００２３】

出隅部材本体２および可動部材１０の裏側に折り曲げのための切込みが形成されると、次に切込みの切口２３（図２）に接着剤を塗布するに際して、出隅部材本体２と可動部材１０との可動面５、１１に接着剤が付着しないように接着剤が塗布される。

【００２４】

図６は、図１～５に示す出隅部材O_1を折り曲げて成形した出隅部材を出隅３０に取り付けた状態の斜視図である。W字状の切込みの部分で折り曲げられ形成された出隅部材O_1は、壁２７と床２８の床側出隅３０に取り付けられる。

【００２５】

次に、出隅部材O_1の作用について図６を用いて説明する。出隅部材O_1は、出隅部材本体２に可動部材１０を嵌合させた状態で、これら二部材の裏側に折り曲げのための切込みが形成されるので、この切込み位置で出隅部材O_1を折り曲げることができる。このとき、舌状片１６を嵌合部の前面１４から内側に位置させて内側方向に向って形成されるので、出隅部材O_1を折り曲げたときに折り曲げ部分において舌状片１６は互いに干渉することなく、互いに重なり合って折り曲げられる。

【００２６】

さらに、舌状片１６は嵌合部１３に延在するので、嵌合部１３を出隅部材本体２に対して下方にスライドすることにより舌状片１６を床面２９に当接させることができ、単純な構造で壁や建具の下端と床面との間の隙間を覆うことができる。

【００２７】

さらに、出隅部材本体２と可動部材１０との可動面に接着剤が付着しないように接着剤が塗布されるので、可動部材１０は出隅部材本体２に対して上下方向にスライド可能である。したがって、可動部材１０を下方にスライドさせて、その下端が床面２９に当接するようにすることにより壁や建具と床面との間の隙間を隠すことができる。

【００２８】

さらに、図６に示すように、折り曲げた先端が平坦面２４となり損傷を受けにくい構造となり、かつ強度的に有利となる。

【００２９】

図９は、可動部材の舌状片２５が嵌合部の前面１４位置から外側に突出した場合の比較例を示し、（ａ）は要部断面図、（ｂ）は出隅３０に取り付けた状態の斜視図である。図９（ａ）に示すように、舌状片２５が嵌合部の前面１４位置から外側に突出している場合には、切込み位置で折り曲げたときに、図９（ｂ）に示すように、折れ曲げた部分に舌状片２５の捲り上がり部２５ａが発生し、捲り上がり部２５ａの下端と床面２９との間に隙間が発生し出隅部材としての機能が発揮されない。

【００３０】

図１０は、図９の舌状片２５に切込みを入れて出隅３０に取り付けた状態の比較例斜視図である。図９の舌状片２５に切込みを入れて出隅３０に取り付けた場合は、舌状片２５が左右に開いた部分、すなわち欠損部２５ｂが発生し、この部分に相当する壁と床の隅を覆うことができない。

【実施例２】

【００３１】

図７は、本発明に係る出隅部材の実施例２の断面図である。この出隅部材O_2において、可動部材の舌状片１６を嵌合部の前面１４より距離ｄだけ内側に位置させて内側方向に向って反るように形成される。出隅部材本体の化粧シート前面２１と可動部材の嵌合部前面１４とは面一である。舌状片１６の最も突き出た先端１７は、嵌合部の前面１４よりも少なくとも化粧シート１９の厚み分だけ内側に位置する。

【００３２】

図８は、図７に示す出隅部材O_2の切込みの深さを説明する断面図である。出隅部材本体２および可動部材１０の裏面３、１２から化粧シート１９の裏面２０まで２点鎖線２６

ａで示すように、切込みを入れたときに舌状片１６は最大の切込み面において切断される。さらに、舌状片１６が内側方向に反るように形成されるので、切込み部分で折り曲げたときに、その折れ曲がり部分において舌状片１６が互いに干渉することなく重なり合い床面に当接する。図７、８におけるその他の部分の構造と作用は、図１～６に示したものと同じであるので、その説明を省略する。

【００３３】

以上この発明を図示の実施例について詳しく説明したが、それを以ってこの発明をそれらの実施例のみに限定するものではない。要するに、この発明の精神を逸脱せずして種々改変を加えて多種多様の変形をなし得ることは云うまでもない。

【産業上の利用可能性】

【００３４】

本発明の出隅部材およびその施工方法は、壁や建具などの床側出隅に取り付けられる出隅部材およびその施工方法に利用可能である。

【図面の簡単な説明】

【００３５】

【図１】本発明に係る出隅部材の実施例１を示す断面図である。

【図２】図１に示す出隅部材の平面図である。

【図３】図２の正面図である。

【図４】図２の背面図である。

【図５】図１～４に示す出隅部材の切込みの深さを説明する断面図である。

【図６】図１～５に示す出隅部材を折り曲げて成形した出隅部材を出隅に取り付けた状態の斜視図である。

【図７】本発明に係る出隅部材の実施例２の断面図である。

【図８】図７に示す出隅部材の切込みの深さを説明する断面図である。

【図９】可動部材の舌状片が嵌合部の前面位置から外側に突出した場合の比較例を示し、（ａ）は要部断面図、（ｂ）は出隅に取り付けた状態の斜視図である。

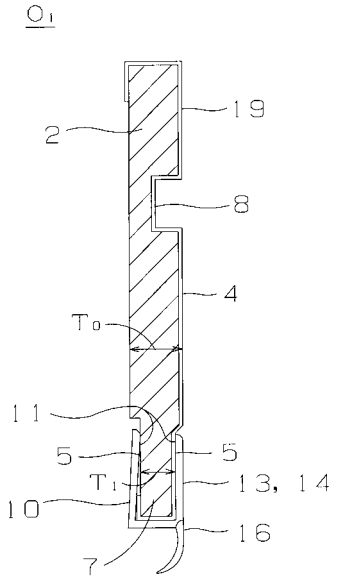
【図１０】図９の舌状片に切込みを入れて出隅に取り付けた状態の比較例斜視図である。

【符号の説明】

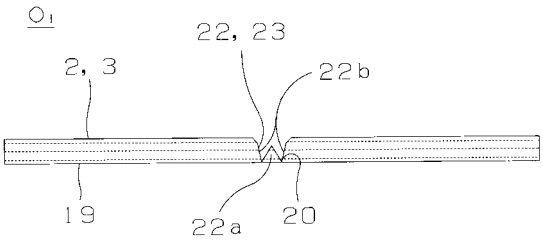
【００３６】

Ｏ$_1$、Ｏ$_2$　出隅部材
２　出隅部材本体
３　裏面
４　前面
５　可動面
７　嵌合部
１０　可動部材
１１　可動面
１２　裏面
１３　嵌合部
１４　前面
１６　舌状片
１９　化粧シート
２０　裏面
２１　前面
２２　切込み
２３　切口
２７　壁
２８　床
２９　床面
３０　出隅

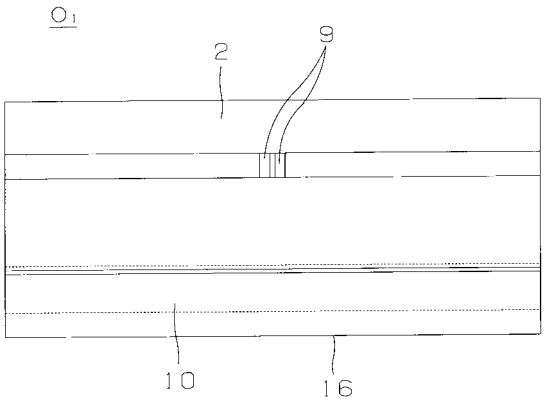
【図１】


O1
19
2
8
4
T0
11
5
5
T1
13, 14
10
16
7

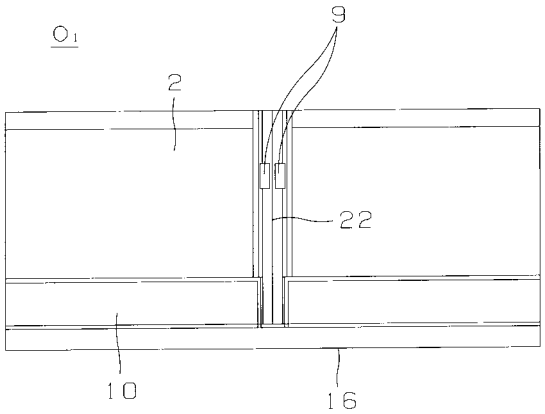
【図２】


O1
22, 23
2, 3
22b
19
22a
20

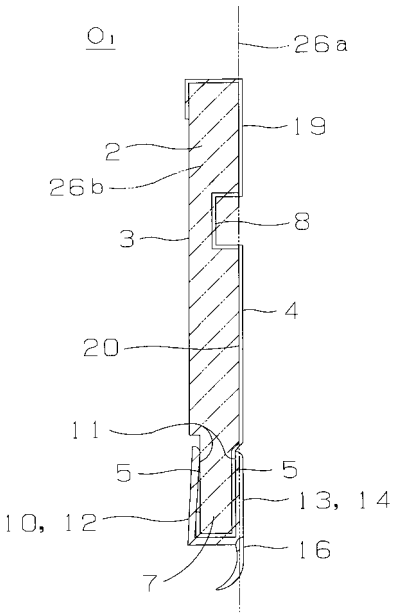
【図３】


O1
2
9
10
16

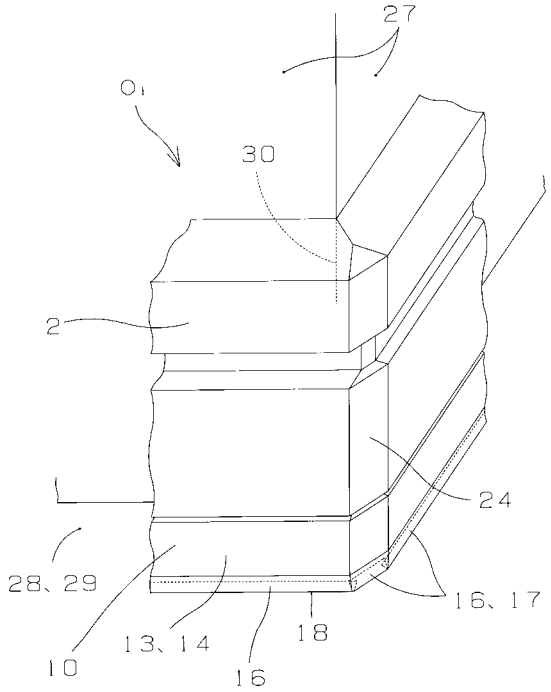
【図４】


O1
9
2
22
10
16

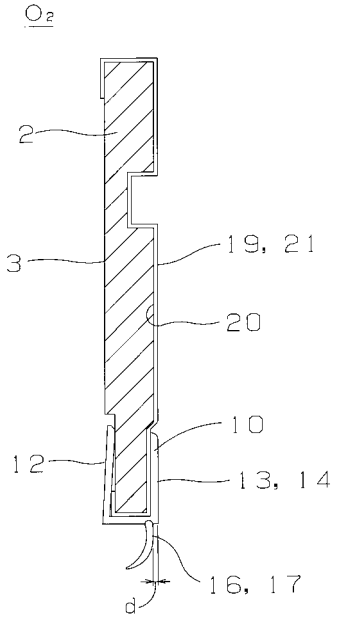
【図５】


O1
26a
19
2
26b
8
3
4
20
11
5
5
13, 14
10, 12
16
7

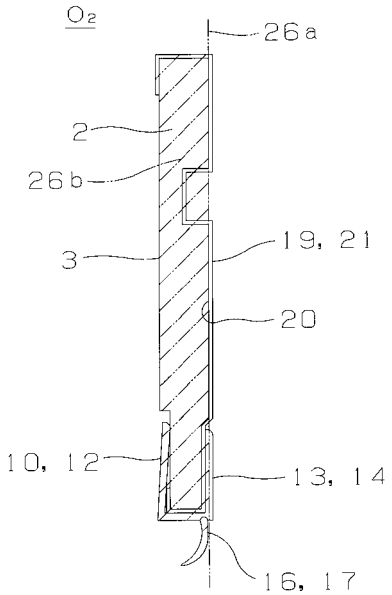
【図６】


27
O1
30
2
24
28、29
16、17
10
13、14
18
16

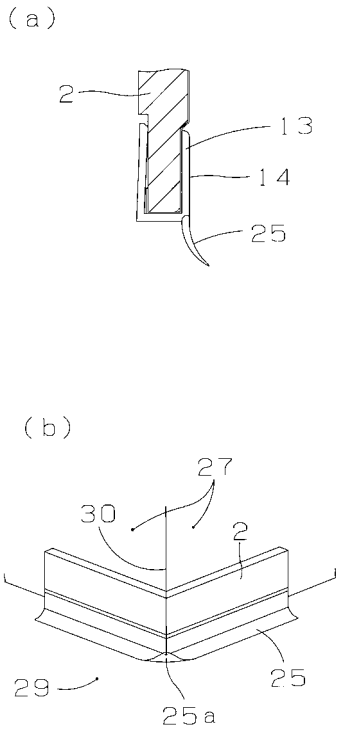
【図７】


O2
2
3
19, 21
20
10
12
13, 14
16, 17
d

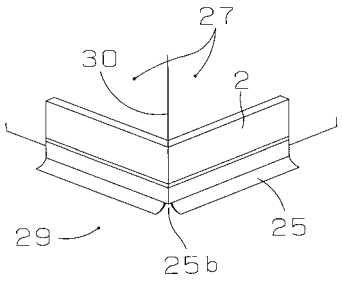
【図８】


O2
26a
2
26b
3
19, 21
20
10, 12
13, 14
16, 17

【図９】


(a)
2
13
14
25
(b)
27
30
2
29
25
25a

【図１０】



フロントページの続き

(56)参考文献 特開平０３－１１０２５９（ＪＰ，Ａ）
実開平０２－０９５７３９（ＪＰ，Ｕ）
実開平３－１８３４６（ＪＰ，Ｕ）
特開平９－４９３１３（ＪＰ，Ａ）
特開２０００－１７９１２１（ＪＰ，Ａ）

(58)調査した分野(Int.Cl.，ＤＢ名)
Ｅ０４Ｆ １９／０４
Ｅ０４Ｆ １３／０７３